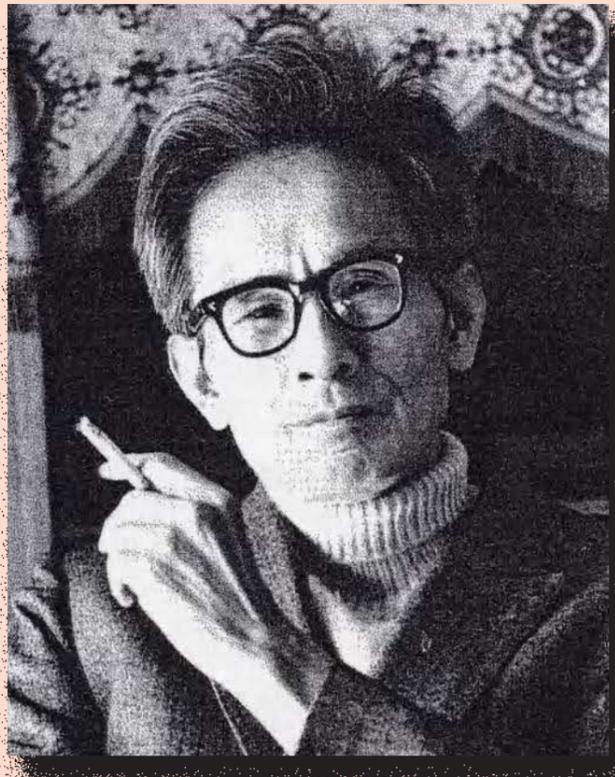


小説

斯波四郎



山口市
(1910～1989)

山口県阿東町（現・山口市阿東）出身。本名、柴田四郎。第五高等学校中退。『東京日日新聞』に就職する。日華事変で、上海、南京へ郷土部隊慰問隊に随行し、昭和十六年に第一線の従軍記者となる。その後、サンデー毎日に勤務。執筆の暇がなかったが、終戦後、遠のいていた小説を書き始め、多く名作を生み出した。昭和三十四年九月、『早稲田文学』（五月号）に発表した「山塔」で、第四十一回芥川賞を受賞し、多くの人の知るところとなった。

（倉増 清）

【主な著作】

『山塔』（文芸春秋新社、昭和34年）

『檸檬・ブラックの死』（講談社、昭和34年）

『愛と死の森』（雪華社、昭和35年）